自己紹介

だるまさんクリニック

所在地　：さいたま市緑区東浦和
　　武蔵野線東浦和駅徒歩10分

スタッフ：医師　　１名
　　臨床心理士　　１名

外来診療：月・水・金　午前

訪問診療：随時

平成28年６月開設

自己紹介

訪問看護ステーションふぁん

所在地　：さいたま市緑区東浦和
　　武蔵野線東浦和駅徒歩10分

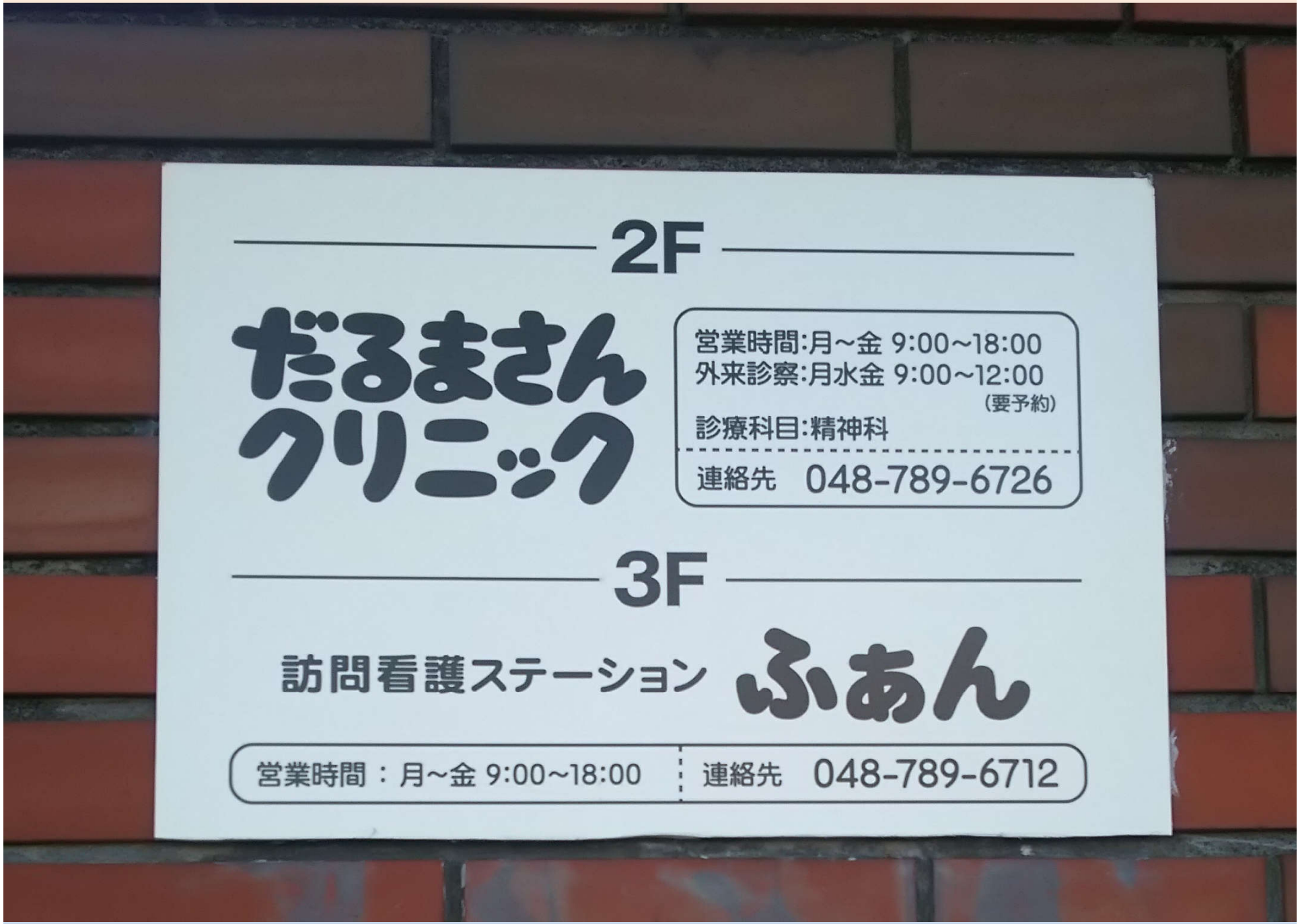
スタッフ：看護師　　３名
　　作業療法士　　１名
　　精神保健福祉士　２名（兼務）

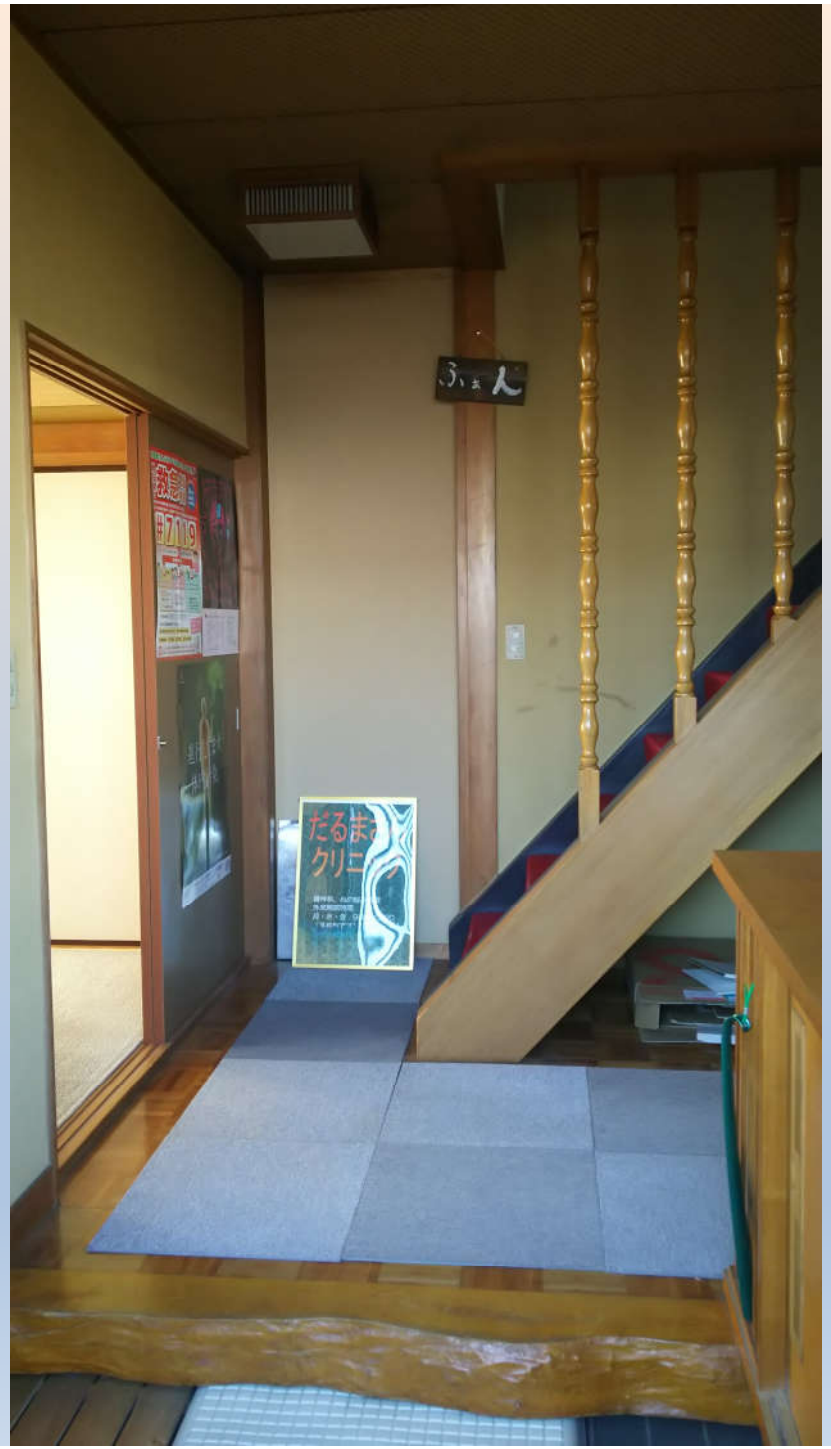
営業日　：24時間　365日対応
　　（通常営業　月～金）

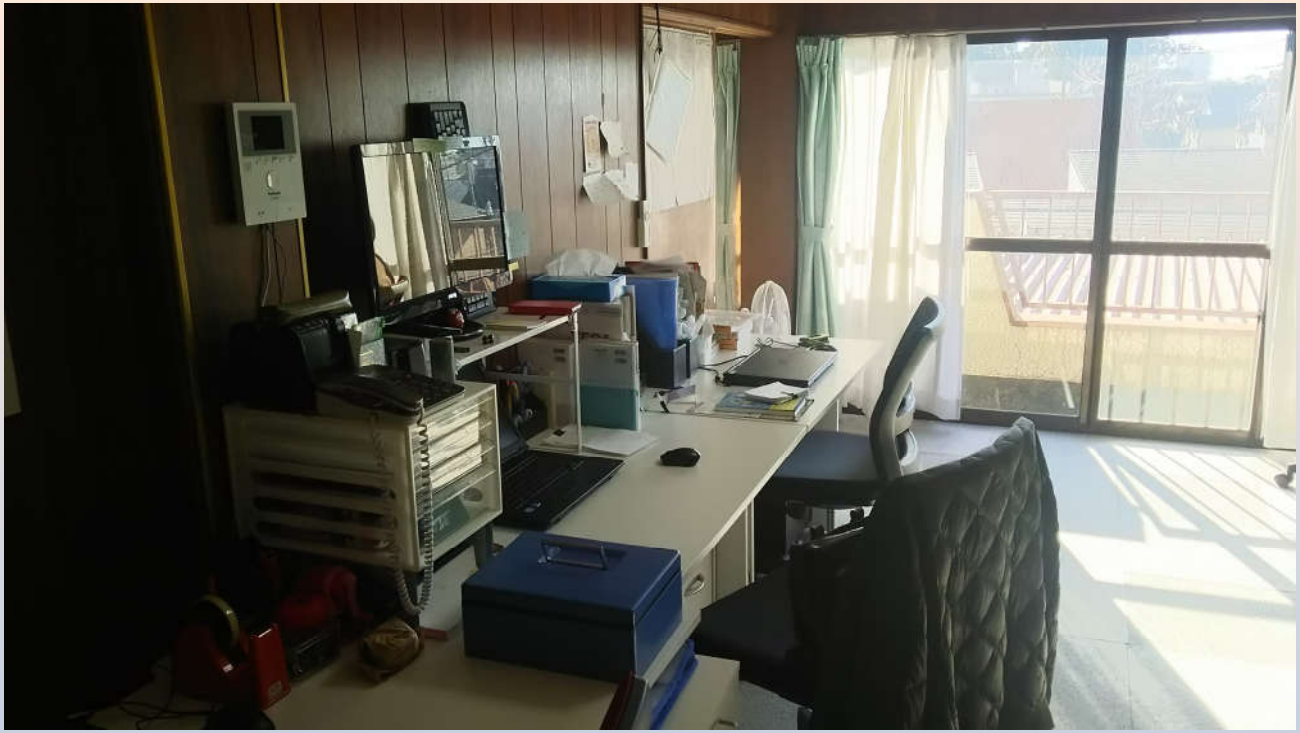
平成28年４月開設

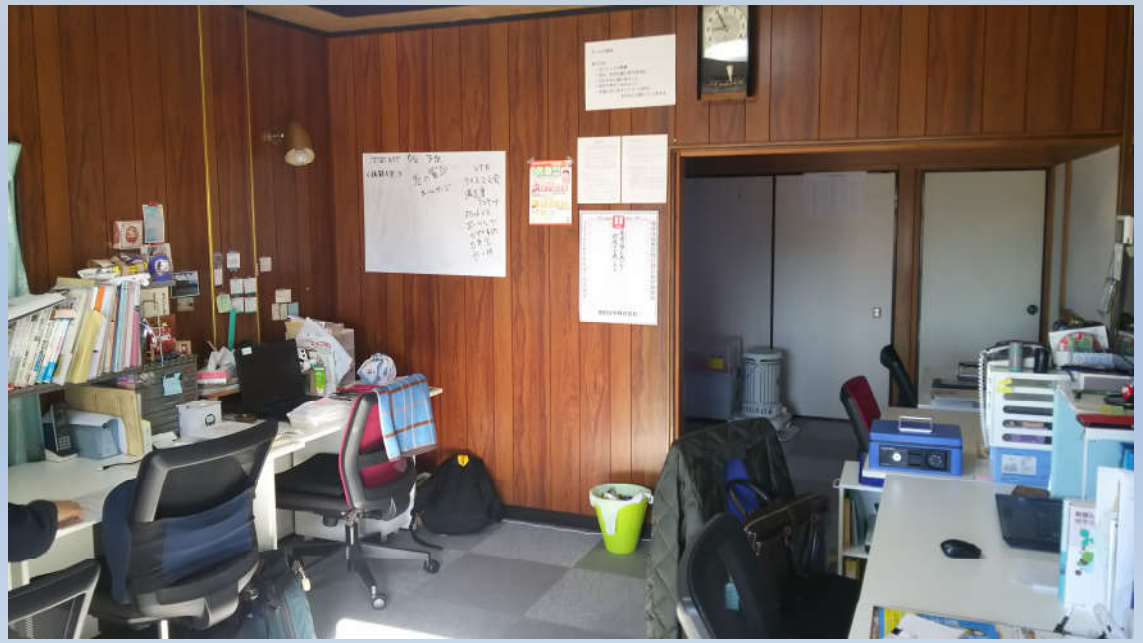
自己紹介

だるまさん クリニック	訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ ふぁん
医師　１名	看護師　３名
公認心理士　１名	作業療法士１名


2F
だるまさん
クリニック
営業時間:月～金 9:00～18:00
外来診察:月水金 9:00～12:00
(要予約)
診療科目:精神科
連絡先 048-789-6726
3F
訪問看護ステーション ふあん
営業時間：月～金 9:00～18:00
連絡先 048-789-6712


ふぁん





～チームが大切にしていること～

リカバリー

&

ストレングス

～チームが大事にしていること～

- 利用者の言葉や気持ちに寄り添う
- 利用者の自己決定の尊重
- 中腰の姿勢で待つ
- スタッフの個性の尊重　リカバリー＆ストレングス志向
- ミーティングを含めた円滑なコミュニケーション
- 地域との連携
- 地域における貢献

アウトリーチとは？

アウトリーチ(名詞：Outreach、英語の動詞では、**Reach Out**)とは、英語で手を伸ばすことを意味する。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービスなどの意味で多用される。

(wikipediaより抜粋)

多職種アウトリーチチームの使命

多職種アウトリーチチームの使命は、精神障害のために、通院や通所もままならず、自宅にひきこもって社会的に孤立しているような状態にある人々に、訪問活動（アウトリーチ）により、生活支援、医療支援などを含む、包括的な支援を提供することにあります。(中略)支援の目標はリカバリー（Recovery）のプロセスを支え、それに寄り添うことということができます。

(伊藤順一郎　多職種アウトリーチチームによる支援のガイドライン)

その他の定義：日本公衆衛生協会「精神障害者アウトリーチにおける保健所の果たすべき役割に関する研究(H25)」報告書

平成26 年4 月から改正精神保健福祉法が施行される。それに伴って「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」が大臣告示として出される。その中で、保健所には、医療のアウトリーチチームとの連携と精神障害者に対する訪問支援並びに関係機関との調整等の保健所の有する機能を最大限に有効に活用することが明記されている。

上記の退院者向けアウトリーチや、数年前から実施されている訪問診療と訪問看護をユニット化した日本型ACT チームが存在する地域は、まだまだ少ない。そのため、日本の多くの地域では、保健所が地域の訪問系の社会資源を掌握し、それらをネットワーク化して、アウトリーチの運営理念に基づいて、体制整備することが必要となる。

(p68全国でアウトリーチ体制整備を行うために保健所等に求められていること)

その他の定義：日本医師会「長期入院精神障害者に対するアウトリーチを含めた地域移行のあり方」精神保健委員会答申

医療機関が在宅に出向くことについての制約は多く、「医療的アウトリーチ」を行う場面は多くない。また、在宅患者ひとりの為に多職種の医療従業者が相当時間数を対応することは、きわめて高コストで非効率的医療サービスである。現在の保険診療制度の中では算定可能期間が限定されている。「医療的アウトリーチ」の主たる目的は、「可及的速やかに本人が通院等の治療ができるようになること」と言って過言ではない。(p12 精神科病院の立場から)

アウトリーチの本来の意味を考えてみる。アウトリーチには保健中心型アウトリーチ・医療中心型アウトリーチ・福祉中心型アウトリーチがある。精神障害者アウトリーチ支援事業は受療中断者、自らの意志では受診が困難な精神障害者、長期入院等の後退院した者、入退院を繰り返す精神障害者に対し、一定期間、保健、医療、福祉全ての面から包括的なアウトリーチを行うことにより、新たな入院及び再入院を防ぎ、地域生活が維持できるような体制を地域において構築することを目的とした。しかしながら結果的には未治療・治療中断・引きこもりの患者を治療に導くという観点から保健中心型アウトリーチとなっている。(中略)先ずはアウトリーチの言葉としての意味を統一することが必要である。個々の患者に対してどの型のアウトリーチが必要でどこが主として行っていくかを考えながら、皆が同じベクトルをもって進んでいくことが大切である。(p26 地域移行に向けたアウトリーチのあり方)